

中信 東信 北信 **信州ワイド**

上伊那

上伊那地方で失職者を支援している個人・団体でつくる「SOSネットワーク上伊那」は25日、年内最後の「何でも相談会」を伊那市の上伊那農協本所で開いた。秋ごろから日本人の相談者が急増しており、この日訪れた3人も日本人だった。

この日初めて訪れた市内の男性(29)は、製造業の工場への派遣契約が9月に切れて求職中。「仕事が決まるまでの生活費に困っている」と打ち明け、生活保護の相談のために同ネットの相談員と市役所へ向かった。

同ネットによると、同ネットや構成団体が今年3月から開いている相談会を訪れたのは計約600人に上る。生

上田市民有志や上小地区労働組合連合などをつくる「反貧困・暮らしと雇用を守る上小ネットワーク 陽だまりネット」は25日、職を失った人らを対象にした生活相談会ともちつき大会を同市民会館で開いた。つき上がったもちは、きな粉やあんなどをまぶして相談者らに振る舞った。

生活相談会は、今年3月の同ネット発足からほぼ毎月開いており、10回目。年の瀬に少しでも元気を出そうと今回

はもちつきも企画した。市民会館の入り口に臼が据えられ、支援物資のもち米約14斗を同ネットのスタッフがつき上げた。相談に訪れてきねを握る人もいた。初めてもちを

上田

年の瀬も失職者ら支援の輪



陽だまりネット「元気出して」もちつき

「陽だまりネット」のスタッフともちをつく相談者(右から2人目)

ついた同市常磐城の日系ブラジル人、小林ナオユキさん(42)は1年前に職を失ったといい、「来年は仕事を見つけられるといい」と話していた。

同ネット事務局によると、コメや野菜などの支援物資は県内各地から寄せられている。相談会を訪れた人の中には就職後にボランティアとして相談会を支えているケースもあるといい、支援の輪が広がっている。問い合わせは同ネット事務局(☎0265・8702・9730)へ。



SOSネットワーク上伊那 相談会 3月以降600人

活保護や住宅手当についての相談が多く寄せられている。当初はブラジル人の利用が圧倒的に多かったが、10月ごろからは日本人の相談が目立つという。同ネットは「景気悪化の影響が日本人にも及んでいる。これまで以上に行政の支援が必要」と訴えている。同ネットは来年も毎月最終金曜日に相談会を開く。問い合わせは同ネット事務局(☎0265・79・8702)へ。

職探しや生活の相談を受けるSOSネットワーク上伊那のメンバー(左)